

# ろう・難聴教育研究会（旧TC研）小研究会のお知らせ

6月4日(土) 13時10分～5時（開場12時50分）

## 事例報告「手話をベースにした指導」

### 事例1 「ろう学校小学部入学後手話コミュニケーションが順調に発達したA君」

家庭訪問指導で関わり続けた立場からの報告 的場真木

手話コミュニケーションの意義 田中美郷（田中美郷教育研究所）、

ろう学校の元担任の立場から 前田芳弘（江東ろう学校）

ろう児の話し言葉である手話コミュニケーションの学習と日本語学習、教科学習を同時進行的に行ってきたA君の事例について立場の異なる三者の報告。手話コミュニケーションの発達と日本語学習や教科学習との関わり、A君がどのように順調な発達を遂げたのか、具体的な実践の報告に基づき、指導のあり方や手話コミュニケーションの意義について考える。

### 事例2 「教科学習の基本となる、ことば指導の総合的な試み」

木村淳子（横浜ろう学校）

ろう学校小学部低学年では、それまでの生活言語中心の世界から教科学習のことばへの移行が特に大きな課題となっている。親しい人との会話、つまり相互のコミュニケーションの中で用いられる生活言語（一次のことば）に対して、学習言語（二次のことば）は、その対象は不特定であり、状況的文脈から離れて用いられる。教科学習で重要となる二次のことばを使いこなすためには、「ことばをことばで理解する」力が求められる。この二次のことばの獲得には、生活体験に基づいた一次のことばを広げ、深めつつ、それを書きことばに置き換えたり、徐々に状況的文脈を離れた場面で使用したりする、意図的な指導、つまり“一次のことばを二次のことばへスムーズにつないでいく指導”が大切になる。このためには、教科学習のみでは十分でなく、朝の会や日記指導、保護者との密な連携の中で、ことばを中心として、子どもの力を総合的に育むきめ細かな指導が不可欠である。小学部入学前まで、手話を主なコミュニケーション手段としてきたB君について、日常的な指導や保護者との連携、教科学習の中で行ってきた取り組みを報告する。

会場●区民会議室 文京区(駒込)勤労福祉会館1F (03-3823-6711) 東京都文京区本駒込 4-35-15

JR山手線駒込駅・東口改札(東口改札は階段を下ったガード下)を出る。改札を出たら右に曲がる。「アザレア商店街」になる。「アザレア商店街」を約500m歩く。商店街をぬけて住宅街になり、道幅がだんだん狭くなるが、2つめの信号まで歩く。その信号が「不忍(しのばず)通り」。左に曲がり約200m歩くと右側の建物が文京区(駒込)勤労福祉会館

参加費●会員1000円 非会員1500円（当日、受付で頂きます）

定員●60名 情報保障●手話通訳があります。

参加申込●氏名、会員非会員の別、所属・部、連絡先(住所、電話、Eメールアドレスを書いて、FAXまたはメールで、5月31日までに、下記へ申し込んで下さい。

当日受付も行ないませんが、定員を超えた場合には、事前に申し込んだ方を優先します。

申込先：長谷川純子 メール：[naoh@green.ocn.ne.jp](mailto:naoh@green.ocn.ne.jp) FAX：048-987-1369

問い合わせ●FAX 03-3884-9582（前田） メール [tcymaeda@hotmail.com](mailto:tcymaeda@hotmail.com)（前田）

TEL 090-6035-4686（矢沢） [9時～17時]